

普及活動情勢報告（令和元年11月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ほ場、栽培管理の見える化を目指して ～経営・栽培管理システム導入講習会の開催～



ICTベンダーからシステムの操作方法の講習を受ける社員

10月25日、営農支援センター四万十(株)で、経営・栽培管理システム『アグリノート』の導入講習会が開催され、社員ら15名が参加しました。

栽培管理はこれまで、地区ごとに用意した図面上では場を確認し、作業終了後に地番や作業内容、時間を日誌に記録していましたが、今後は、タブレット上に表示された地図画面でほ場を確認し、実施した作業内容などをそのタブレットに入力するようになります。

参加者は、初めての操作で慣れない手つきでしたが、経営・栽培管理システムを使いこなそうと奮闘していました。

今後は、普及所も協力して利用した感想や意見を聞き、改善点を洗い出し、現場で効率的・効果的に活用できるよう、スマート農業実証事業に取り組んでいきます。

ショウガの収穫作業の省力化を目指して ～新型ハーベスター実演講習会の開催～



新型ハーベスターによるショウガの収穫作業を見学する参加者

11月5日、四万十町若井地区のほ場で、新型ハーベスターによる実演講習会を開催し、生産者など20名が参加しました。

生産者からは、「ほ場に入っていくには軽トラックが限界だが、新型の機械は大きく、軽トラックに乗せられない。もう少しコンパクトにできればいいのだが」と意見があがりました。

普及所は、今回の実演作業を基に、新型ハーベスターのショウガの親芋の堀上作業と従来作業との比較を行いようにしており、作業能率の向上が期待されています。

普及所は今後も関係機関と連携し、ショウガの安定生産や作業の省力実現に向けて支援していきます。

農福連携で人手不足をカバー ～四万十町農福連携推進協議会農作業体験研修の開催～



セリの出荷調製作業を説明する生産者（中央）と利用者ら

11月7日、四万十町神ノ西地区にある就労継続支援多機能型事業所で、水耕セリの出荷調製作業の体験研修を開催し、事業所の利用者等5名が参加しました。

今回は、人手不足で出荷調製作業が十分に対応できていないJA高知県四万十水耕セリ部会を対象に行い、生産者が水耕セリの荷姿や出荷調製の手順を具体的かつ丁寧に説明しました。

就労継続支援多機能型事業所の代表は「利用者の所得を確保するために請負う品目を増やし、仕事量の平準化を図りたい。生産者の所得向上にも資することができればうれしい」と話していました。

普及所は、今後も地域内にある就労継続支援事業所と連携し、農福連携を推進していきます。

まだ間に合う茶の秋整枝

～広井茶生産組合総会の開催～



秋整枝作業の説明をする普及指導員

11月8日、四万十町井崎地区の井崎集会所で広井茶生産組合の総会が開催され、生産者等20名が参加しました。

普及所は、一番茶の品質向上へ向けた秋整枝作業の説明と、秋の気温が高かったことから、秋整枝を行っていない生産者へ作業の実施を促しました。

生産者からは、秋整枝の摘採位置の深さや、台切り後の管理について質問があり、生産意欲の高さが見られました。

普及所は今後も、広井茶生産組合と当地区の茶生産農家の取り組みを支援していきます。

高品質なニラの栽培・出荷に向けて ～JA高知県四万十ニラ出荷検討会の開催～



普及指導員から試験結果の報告を受ける生産者

11月12日、JA高知県四万十ニラ部会の出荷検討会が開催され、生産者24名が参加しました。

普及所からは、令和元年度実証試験結果や、アザミウマ対策、出荷調製作業（そぐり機操作方法、作業部屋の照度）についての情報提供を行いました。

参加者からは「夏期の抽苔を軽減できるように来年以降も試験を継続してもらいたい」「調製部屋が少し暗い気がしていた、計測して欲しい」といった声や、栽培においてはネギアザミウマの薬剤感受性が低下していることに危機感を感じている様子がみられました。

普及所は今後も関係機関と連携し、高品質なニラの出荷に向けた取り組みを行っていきます。